

# セカンドパーティ・オピニオン 戸田建設株式会社 グリーンボンドフレームワーク



## 評価概要

サステナリティクスは、戸田建設株式会社（以下、「戸田建設」あるいは「同社」）のグリーンボンドフレームワーク（以下、「本フレームワーク」）は、グリーンボンド原則 2018（Green Bond Principles、以下、「GBP」）の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスが、この評価に際して考慮したのは以下の要素です。



**調達資金の使途** 資金使途の対象となる適格カテゴリー、1) 再生可能エネルギー、2) グリーンビルディングは、GBP において認められているカテゴリーと合致しています。また、サステナリティクスは、戸田建設の適格プロジェクトは、環境改善効果をもたらし、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）の目標 7 及び 9 を推進するものと考えます。



**プロジェクトの評価及び選定** グリーンボンドの調達資金の使途となるプロジェクトは、適格クライテリアに沿って、戦略事業推進室及び財務部によって評価及び選定された後、取締役会による承認を経て最終選定されます。戸田建設のプロジェクトの評価及び選定はマーケット・プラクティスに合致しています。



**調達資金の管理** 戸田建設財務部が調達資金の管理において責任を有し、四半期毎に内部管理システムを用いてグリーンボンドの適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理します。戸田建設の調達資金の管理におけるプロセスはマーケット・プラクティスに合致しています。



**レポートニング** 戸田建設は、年次で同社ウェブサイト及び CSR レポート上で、調達資金が完全充当されるまでの間、充当状況レポートを開示し、また、グリーンボンドが全額償還されるまでの間、インパクト・レポートニングを開示する予定です。充当状況レポートニングには、プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額、充当予定時期、未充当資金の運用方法を含む充当状況の報告が示されます。また、インパクト・レポートニングには、風力発電機のカーボンオフセット量やグリーンビルディングの認証及び CO<sub>2</sub> 排出量・削減量を含む定性的及び定量的な環境改善指標の報告を約束しています。

評価日	2020年7月30日
発行体所在地	日本（東京）

## レポートセクション

はじめに.....	2
サステナリティクスのオピニオン.....	3
参考資料.....	10

本件に関するお問い合わせは、下記の Sustainable Finance Solution プロジェクト担当チームまでご連絡ください。

**Wakako Mizuta (東京)**  
Project Manager  
wakako.mizuta@sustainalytics.com  
(+81) 3 4510 2343

**Marie Toyama (東京)**  
Project Support  
marie.toyama@sustainalytics.com  
(+81) 3 4510 2343

## 日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性

サステナリティクスは、本フレームワークが日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版に適合しているとの意見を表明します。日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版は信頼性の高いグリーンボンド発行のために発行体に期待される事項を示しています。サステナリティクスは、本フレームワークと日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において「べきである」と表記されている事項との適合性を評価しました。

## はじめに

戸田建設株式会社（以下、「戸田建設」あるいは「同社」）は、1881年に創業され、東京に本社を置く総合建設会社です。同社は、建築・土木一式工事や地域・都市開発に係るエンジニアリング及びコンサルティング業務、不動産の売買、賃貸、仲介、管理、そして再生可能エネルギー等による発電事業等を主要な事業として展開しています。また、同社の建設事業では、商業建築・官公庁・住宅（医療・福祉、教育、行政施設、集合住宅、等）に加え、インフラ建設（空港、鉄道、道路、上下水道施設等）等にも実績を有し、電力エネルギー施設（メガソーラー発電所、風力発電所、水力発電所等）にも重点を置いています。現在、戸田建設は、支店及び子会社含め、国内及びアジア、アメリカ、アフリカ等の海外に拠点を置いています。

戸田建設は、グリーンボンドを発行することを企図して戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク（以下、「本フレームワーク」）を策定し、グリーンボンド発行により調達した資金を環境改善効果をもたらす日本のプロジェクトへのファイナンス資金及び／又はリファイナンス資金に充当する予定です。本フレームワークは、以下の領域において適格クライテリアを定めています。

1. 再生可能エネルギー（洋上風力発電）
2. グリーンビルディング

戸田建設は、サステナリティクスとの間で、2020年6月付の本フレームワークとGBP<sup>1</sup>及び日本の環境省が定めるグリーンボンドガイドライン 2020年版<sup>2</sup>との適合性並びにその環境面での貢献について、セカンドパーティ・オピニオンを提供する委託契約を締結しています。本フレームワークの概要は、参考資料1をご覧ください。

### サステナリティクスのセカンドパーティ・オピニオンの業務範囲及び限定

サステナリティクスのセカンドパーティ・オピニオンは、評価対象の本フレームワークの現行のマーケット・プラクティスへの適合性並びに適格カテゴリーの信頼性及び環境改善効果についてのサステナリティクスの独立した見解を反映しています<sup>3</sup>。

セカンドパーティ・オピニオンの一部として、サステナリティクスは以下を評価しました。

- ・ 本フレームワークの、ICMAによるGBP及び日本のグリーンボンドガイドライン 2020年版への適合性
- ・ 調達資金の用途に関する信頼性及び想定される改善効果
- ・ 調達資金の用途に関連する発行体のサステナビリティ戦略、実績及びサステナビリティ・リスク管理の整合性

調達資金の用途の評価に関して、サステナリティクスは、マーケット・プラクティスとESGのリサーチ・プロバイダーとしてのサステナリティクスの専門知識に基づく社内のタクソノミー（バージョン 1.4.1）に依拠しています。

サステナリティクスは、委託契約の一環として、本フレームワークにおける調達資金の管理やレポートの側面だけでなく、事業プロセスや想定される調達資金の用途のサステナビリティ（持続可能性）に係る影響を理解するため、戸田建設の財務部のメンバーとの対話を実施しました。戸田建設の担当者は、（1）提供された情報の完全性、正確性又は最新性の確保は戸田建設の単独責任と理解していること、（2）全ての関連情報をサステナリティクスに提供していること、（3）提供された重要な情報が適時に適切に開示

<sup>1</sup> 国際資本市場協会（ICMA）、「グリーンボンド原則 2018」：<https://www.icmagroup.org/green-social-and-sustainability-bonds/green-bond-principles-gbp/>

<sup>2</sup> 環境省、「グリーンボンドガイドライン 2020年版」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113511.pdf>

<sup>3</sup> 多様な顧客に対応する複数の業務を運営している場合、客観的な調査がサステナリティクスの基礎となり、アナリストの独立性の確保が客観的で実行可能な調査のために最も重要となります。そのため、サステナリティクスは、堅固なコンフリクト・マネジメント・フレームワークを導入しており、これは、特に、アナリストの独立性、プロセスの一貫性、コマースチームとリサーチ（及びエンゲージメント）チームの構造的分離、データ保護並びにシステム分離の必要性に対応しています。最後にもう一つ重要なこととして、アナリストの報酬は、特定の商業的成果に直接結び付くわけではありません。サステナリティクスの特徴は、一つは完全性、もう一つは透明性です。

## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

されていることを確認しています。また、サステナリティクスは、関連する公表文書及び社内文書の審査も行いました。

本意見書は、本フレームワークに対するサステナリティクスのオピニオンであり、本フレームワークと併せてご覧ください。

現在のセカンドパーティ・オピニオンの更新は、サステナリティクスと戸田建設との間で合意される委託契約の条件に従って行われます。

サステナリティクスのセカンドパーティ・オピニオンは、本フレームワークのマーケット・プラクティスへの適合性を反映していますが、適合性を保証するものでも、将来の関連するマーケット・プラクティスへの適合性を保証するものでもありません。さらに、サステナリティクスのセカンドパーティ・オピニオンは、債券による調達資金の充当が期待される適格プロジェクトによって予想されるインパクトに言及していますが、実際のインパクトを測定していません。本フレームワークに基づいて資金充当されたプロジェクトを通じて達成されたインパクトの測定と報告は、本フレームワークの所有者の責任です。

加えて、セカンドパーティ・オピニオンは、調達資金の意図された充当について意見を述べていますが、債券による調達資金の適格な活動への充当を保証するものではありません。

現在のセカンドパーティ・オピニオンに基づいてサステナリティクスが提供するいかなる情報も、戸田建設が本セカンドパーティ・オピニオンの目的のためにサステナリティクスへ提供した事実又は記述及び関連周辺状況の真実性、信頼性又は完全性に賛成又は反対する声明、表明、保証又は主張とはみなされないものとします。

## サステナリティクスのオピニオン

### セクション 1: 戸田建設グリーンボンドフレームワークへのサステナリティクスのオピニオン

サステナリティクスは、本フレームワークが信頼性及び環境改善効果を有し GBP の 4 つの要件に適合しているとの意見を表明します。サステナリティクスは、本フレームワークにおける以下の要素を重要な点として考慮しました。

- 調達資金の使途
  - グリーンボンドによる資金使途の対象となる 2 つの適格カテゴリー、1) 再生可能エネルギー及び 2) グリーンビルディングは、GBP において環境改善効果を有するプロジェクトカテゴリーとして認定されています。資金使途は、戸田建設が「中期経営計画 2024」にて掲げる洋上風力発電への重点投資や脱炭素化等に向けた課題解決型企業活動を更に推進するものであり、また、エネルギー移行に加え、社会の温室効果ガス（GHG）排出量の低減に資するものです。資金使途の環境改善効果に係るサステナリティクスによる評価の詳細は、セクション 3 をご参照ください。
  - 再生可能エネルギーのカテゴリーでは、五島市沖洋上風力発電事業を含む洋上風力発電施設の開発、運営又は施設拡張に係る支出を資金使途として定めています。サステナリティクスは、再生可能エネルギーにおいて設備投資に加え運営費用が含まれることは、環境改善効果の維持に必要な費目であり、また、低炭素エネルギーへの移行に貢献するプロジェクトとして肯定的に考慮します。
  - グリーンビルディングのカテゴリーでは、適格クライテリアを満たす建築物の設備投資（土地取得費、建設費、改修費）を費目とし、適格クライテリアにおいて、第三者認証機関によるグリーンビルディング認証制度である CASBEE-建築（新築、既存、改修）又は CASBEE-不動産における S 又は A ランク、LEED-BD+C 又は LEED-O+M における Platinum 又は Gold、BELS 又は DBJ Green Building 認証における 5 つ星又は 4 つ星を取得済み又は取得予定の物件を資金使途の対象と定めています。サステナリティクスは、戸田建設による各認証制度における上位 2 つのレベルに限定する同適格クライテリアの設定は、マーケット・プラクティスに合致し

## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

ていると考えます。（グリーンビルディング認証スキームの概要と比較については、参考資料 2 をご参照ください。）

- 同社は、グリーンビルディングの適格クライテリアにおいて、上記第三者認証制度に加え、日本の省エネルギー適合基準との比較で 50%以上の省エネルギー性能を有する建築物に与えられる ZEB Ready（ゼブレディ）<sup>4</sup>及び東京都建築物環境計画書制度<sup>5</sup>における段階 3 に該当又は該当予定の物件を資金使途の対象としています。サステナリティクスは、当該制度が一定の環境改善効果を創出するものであることを認識している一方で、自己評価に基づくものに対し環境改善効果の厳密性や信頼性が弱まる懸念があることから、更なる強固なフレームワークにするために、第三者認証機関によるグリーンビルディング認証の取得物件を資金使途とするのも推奨します。
  - 戸田建設は、グリーンボンドの調達資金を新規及び／又は既存のプロジェクトに充当する予定です。既存のプロジェクトについては、リファイナンスをグリーンボンドの発行日から遡って 3 年以内に調印した風力発電プロジェクト又は竣工した物件を対象としています。
- プロジェクトの評価及び選定
    - 戸田建設の適格プロジェクトは、適格クライテリアに沿って、戦略事業推進室によって評価され、財務部によって選定されます。また、調達資金の充当対象となる適格プロジェクトの選定は、取締役会によって最終承認されます。サステナリティクスは、同社のプロジェクトの評価及び選定のプロセスは、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。
  - 調達資金の管理
    - 戸田建設の調達資金の管理は、財務部が責任を有しています。財務部は、内部管理システムを用いて、四半期毎にグリーンボンドフレームワークで設定した適格クライテリアを満たすプロジェクトの予算と支出を追跡管理し、未充当資金については現金又は現金同等物にて管理する予定です。また、同社は、グリーンボンド発行から 3 年以内に調達資金の大半を充当する予定です。サステナリティクスは、同社の調達資金の管理プロセスは、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。
  - レポーティング
    - 戸田建設は、充当状況レポーティング及びインパクト・レポーティングを同社のウェブサイト及び CSR レポート上で、年に一度、開示することを約束しています。充当状況レポーティングでは、機密性を考慮して、プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額、充当予定時期、未充当資金の運用方法を含む情報が完全充当されるまでの間、開示されます。また、調達資金の充当完了後も大きな状況の変化があった場合には、適時に開示を行う予定です。インパクト・レポーティングには、洋上風力発電施設に係る環境改善指標として、建設した風力発電機の数に加え、データが入手可能な限り、風力発電機の出力及びカーボンオフセット量を、そして、グリーンビルディングに係る環境改善指標として、物件又はプロジェクトの名称、適格プロジェクトが取得した第三者認証の名称とレベル、また、建物完成後に測定可能な場合、エネルギー使用量、省エネルギー量、CO<sub>2</sub>削減量、延床面積当たりの CO<sub>2</sub> 排出量、水使用量が含まれ、当該指標はグリーンボンドが全額償還されるまでの間、報告されます。サステナリティクスは、同社のレポーティングは、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。

<sup>4</sup> ZEB Ready は、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備により、省エネ基準で求められている基準一次エネルギー消費量から 50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物を指します。<http://www.env.go.jp/earth/zeb/detail/01.html>

<sup>5</sup> 東京都建築物環境計画書制度では、延床面積 2,000m<sup>2</sup> を超える新築・増築・改築の建物に対し環境配慮への措置（エネルギーの使用の合理化、資源の適正利用、自然環境の保全、ヒートアイランド現象の緩和）に関する自己評価を東京都に提出することが求められています。同制度では、東京都が 3 段階評価を導入しており、最上位の段階 3 の基準として、建築物の断熱性評価において、PAL\*低減率 20%以上、設備システムの省エネルギー性において、用途①（事務所、学校、工場等）で ERR30%以上、用途②（ホテル、病院、百貨店、飲食店、集会所等）で ERR35%以上を満たすことを定めています。<https://www7.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/building/>

## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

## グリーンボンド原則 2018 への適合性

サステナリティクスは、本フレームワークが GBP の 4 つの要件に適合していると判断しました。詳細については、グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォーム（参考資料 3）をご覧ください。

## 日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版への適合性

日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版は信頼性の高いグリーンボンドの発行のために発行体に期待される事項を示しています。サステナリティクスは、本グリーンボンドフレームワークと日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において「べきである」と表記されている事項との適合性を評価しました。

GBP と日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版	GBP 及び日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版との適合性	日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版との適合性についてのサステナリティクスのコメント <sup>6</sup>
1. 調達資金の使途	適合	戸田建設は、本フレームワークにおいて、資金使途の対象が洋上風力発電施設及びグリーンビルディング／省エネルギー性能を有する建築物の建設に係る費目であることを説明しており、これら事業は日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において明確な環境改善効果を有する事業区分として認められているものです。また同社は、適格プロジェクトに付随する環境面のリスクの評価や低減措置についても本フレームワークの中で説明しており、投資家は閲覧可能です。また戸田建設は、複数回のグリーンボンドの発行を通じて、長期にわたって維持が必要となる資産にリファイナンスを行う場合、グリーンボンドの発行時点における当該資産の経過年数、残存耐用年数及びリファイナンス額を開示することをサステナリティクスに約束しています。
2. プロジェクトの評価及び選定プロセス	適合	同社は本フレームワークにおいて、グリーンボンドの発行により実現を目指す、環境方針及び環境目標を説明しています。また、本フレームワークは資金使途の適格クライテリアを定めるほか、戦略事業推進室が同クライテリアに沿って適格プロジェクトを評価し、財務部が選定した上で取締役会が最終承認をすることを説明しています。
3. 調達資金の管理	適合	調達資金の管理は財務部が行い、内部管理システムを用いてグリーンボンドが償還されるまでの間、四半期毎に、適格クライテリアを満たすプロジェクトの予算と支出を追跡管理します。未充当資金は、現金又は現金同等物にて管理される

<sup>6</sup> ICMA GBP との適合性の詳細については、参考資料 3 をご参照ください。

ことが本フレームワークで示されています。また、同社はグリーンボンド発行から3年以内に調達資金の大半を充当する予定です。

## 4. レポーティング

適合

戸田建設は本フレームワークにおいて、同社のウェブサイト及びCSRレポート上で年に一度、資金充当状況レポーティング及びインパクト・レポーティングを実施することを表明しています。資金充当状況レポーティングとしては、調達資金が全額充当されるまでの期間、プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額、充当予定時期、未充当資金の運用方法を含む情報が開示される予定です。また、全額充当後も大きな状況の変化があった場合には、適時に開示を行うことを説明しています。インパクト・レポーティングは、グリーンボンドが全額償還されるまで実施され、洋上風力発電施設に係る環境改善指標としては、建設した風力発電機の数に加え、データが入手可能な限り、風力発電機の出力及びカーボンオフセット量が開示されます。グリーンビルディングに係る環境改善指標としては、物件又はプロジェクトの名称、適格プロジェクトが取得した第三者認証の名称とレベル、また、建物完成後に測定可能な場合、エネルギー使用量、省エネルギー量、CO<sub>2</sub>削減量、延床面積当たりのCO<sub>2</sub>排出量、水使用量が開示される予定です。

## セクション 2: 戸田建設のサステナビリティ戦略

### フレームワークによる戸田建設のサステナビリティ戦略への貢献

戸田建設は環境方針<sup>7</sup>を通じて、全ての事業活動において環境保全に取り組み、環境関連事業及び技術開発を推進することを約束しています。同社は、洋上風力発電を中心に再生可能エネルギーの技術開発と建設に取り組んでおり、2020年度からの5カ年を対象とする「中期経営計画2024」<sup>8</sup>においては、洋上風力発電の事業化を戦略事業の一つに位置付けています。また同社は、国際的イニシアチブである「RE100」に加盟し、再生可能エネルギー由来の電力の使用比率を2040年までに50%、2050年までに100%とする目標を掲げており<sup>9</sup>、達成に向けて自社の再生可能エネルギー事業による電力を自社消費に利用する取り組みを推進しています<sup>10</sup>。

グリーンビルディングへの取り組みとして、建築物の建設や運用に伴う環境負荷の低減を目指しています。同社は、環境省による「エコ・ファースト制度」を通じ、2050年までに1990年比で、(1)施工によるCO<sub>2</sub>排出総量の80%削減、(2)設計する事務所ビルによるCO<sub>2</sub>排出総量の80%削減、(3)自社保有施設によるCO<sub>2</sub>

<sup>7</sup> 戸田建設株式会社、「環境方針と推進体制」：<https://www.toda.co.jp/csr/environment/vision.html>

<sup>8</sup> 戸田建設株式会社、「戸田建設グループ「中期経営計画2024」の策定について」：[https://www.toda.co.jp/ir/pdf/toda97\\_20200529\\_1.pdf](https://www.toda.co.jp/ir/pdf/toda97_20200529_1.pdf)

<sup>9</sup> 戸田建設株式会社、「RE100 イニシアチブへ加盟」：<https://www.toda.co.jp/assets/pdf/20190118.pdf>

<sup>10</sup> 戸田建設株式会社、「RE100 達成に向けて自社発電所の再生可能エネルギー電力を実質自家消費」：<https://www.toda.co.jp/assets/pdf/20191008.pdf>

の60%削減及び、(4)建築物を長寿命化することを約束しています<sup>11</sup>。また、Scope1,2 及び Scope 3 についてそれぞれ 2040 年及び 2050 年までの CO<sub>2</sub> 排出削減目標を策定し、国際的イニシアチブである SBTi (Science Based Targets initiative) による認定を受け<sup>12</sup>、同目標の達成に向けて建設現場における CO<sub>2</sub> 削減技術の導入のほか、ZEB の実用化等、環境性能の高い建物の設計に取り組んでいます<sup>13,14</sup>。

以上を踏まえて、サステナビリティクスは本フレームワークが定める資金使途は、戸田建設の環境方針及び環境目標、中期経営計画と整合し、同社が長期的に取り組む再生可能エネルギー事業の推進と建築物のライフサイクル全体の環境負荷の低減の実現を後押しするものと考えます。

### プロジェクトに伴う環境及び社会的リスクに対処する十分な体制整備

サステナビリティクスは、フレームワークで定められている資金使途が GBP において適格性のあるプロジェクトとして考慮され、また、明確な環境改善効果を生み出すプロジェクトとして評価する一方、大規模な洋上風力発電やグリーンビルディングの開発は環境及び社会的リスクに晒されていることを認識しています。主な環境及び社会的リスクには、当該プロジェクト開発における生息環境や生物多様性の喪失、騒音、建設作業員の労働安全衛生、地域住民との調整が挙げられます。サステナビリティクスは、以下の理由で、戸田建設が環境及び社会的リスクの低減に係る体制を有していることを評価します。

- 戸田建設は、洋上風力発電の開発において、日本の環境影響評価法で求められている出力 1 万 kW 以上に加え、出力 7,500kW~1 万 kW 未満で評価対象と判断された風力発電所に対して環境影響評価を実施することを約束しています。洋上風力発電に係る環境影響評価<sup>15</sup>には、騒音・超低周波、水質、動植物、景観・人と自然の触れあい等に関する環境項目が含まれます。対象となるプロジェクトの事業特性や地域特性等考慮され重要となる環境項目への影響評価や地域住民への説明・報告が実施されることで、洋上風力発電の開発にあたり懸念となる環境リスクの低減が確保されます。また、同社は、資金使途の対象に含まれる五島市沖洋上風力発電において、2010 年度から 2015 年度の間、環境省の浮体式洋上風力発電実証事業で実証研究に共同事業実施者として参加しており、当該風力発電施設建設における環境への影響に関する調査を実施した結果、環境への悪影響の可能性は限定的であるとの結論を確認しています<sup>16,17</sup>。
- 戸田建設は、建物の建築において、生物多様性の保全や維持に努める「生物多様性行動指針」を策定しています。同社は、①環境教育を通じた理解促進、②建設事業への展開、③資材等の調達、④研究・技術開発、⑤行政・研究機関・外部団体との協働の 5 つの分野における社員向け指針を通し、計画・設計・施工段階の希少生物の保護を含む生物多様性への影響の回避・低減に加え、施工段階における騒音・振動・大気汚染防止への取り組みを約束しています<sup>18</sup>。
- 同社は、建設物のライフサイクル全般における環境負荷低減を目指しており、設計段階や施工段階において再生砕石、再生骨材、再生鋼材含むリサイクル材等を調達することでグリーン調達<sup>19</sup>を実施しています。また、建設廃棄物を削減する技術や工法を活用することで建設廃棄物の削減及び最終処分率低減を推進しています<sup>20</sup>。
- 戸田建設は、独自の労働安全衛生マネジメントシステム「TODA - OHSMS」<sup>21</sup>に基づいて、労働災害の防止に取り組んでいます。同システムは協力会社を含む関係者の役割及び具体的手順の明文化、PDCA サイクルの実践により、各施工工程に対するリスクアセスメントの実施とリスクの除去・低減措置の導入を確保しています。同システムでは、墜落・転落災害の防止を最重点管理項目として、作業所長が「作業所開口部安全対策書」を作成し、開口部の特定及び墜落・転落防止対策を実践することを定めています。

<sup>11</sup> 戸田建設株式会社、「エコ・ファーストの約束を更新」：<https://www.toda.co.jp/assets/pdf/20171205.pdf>

<sup>12</sup> 戸田建設株式会社、「CO<sub>2</sub> 排出削減目標が SBT 認定を取得（日本の建設業界初）」：<https://www.toda.co.jp/assets/pdf/20170809.pdf>

<sup>13</sup> 戸田建設株式会社、「地球にやさしい施工をします」：[https://www.toda.co.jp/solution/ecology\\_arch/construction.html](https://www.toda.co.jp/solution/ecology_arch/construction.html)

<sup>14</sup> 戸田建設株式会社、「ZEB」：[https://www.toda.co.jp/solution/energy\\_arch/zeb.html](https://www.toda.co.jp/solution/energy_arch/zeb.html)

<sup>15</sup> 環境省、「洋上風力発電所等に係る環境影響評価の基本的な考え方に関する検討会報告書 概要」：<http://www.env.go.jp/press/files/jp/105418.pdf>

<sup>16</sup> 戸田建設、「Vol.2 国内初の浮体式洋上風力発電設備」：[https://www.toda.co.jp/business/ecology/special/windmill\\_02.html](https://www.toda.co.jp/business/ecology/special/windmill_02.html)

<sup>17</sup> 戸田建設は、2018 年 8 月に五島市沖洋上風力発電事業に係る環境影響評価書に対する確定通知を受けました。

<sup>18</sup> 戸田建設、「生物多様性への対応」：<https://www.toda.co.jp/csr/environment/biodiversity.html>

<sup>19</sup> 戸田建設、「グリーン調達の推進」：<https://www.toda.co.jp/csr/environment/green.html>

<sup>20</sup> 戸田建設、「建設廃棄物の削減／有害物質のリスク管理」：<https://www.toda.co.jp/csr/environment/recycle.html>

<sup>21</sup> 戸田建設株式会社、「労働安全衛生マネジメントシステム (TODA - OHSMS) 解説編」：<https://www.toda.co.jp/csr/human/pdf/TODA-OHSMS.pdf>

### セクション3：調達資金の使途によるインパクト

戸田建設が本フレームワークで定めている資金使途の2つのカテゴリーは、GBP及び日本のグリーンボンドガイドライン2020年版によって、環境改善効果をもたらすプロジェクトとして認められています。サステナビリティクスは、当該プロジェクトカテゴリーが日本において環境改善効果をもたらす理由を以下に説明します。

#### 洋上風力発電の導入による気候変動対策への貢献

2011年に発生した東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故を契機に日本政府は原子力発電への依存度を低減し、再生可能エネルギーを最大限導入する政策方針を打ち出しています。2015年には「長期エネルギー需給見通し」の策定により、2030年度の総発電電力量に占める再生可能エネルギーの電源構成比率を震災前の10%の2倍にあたる22-24%（内、風力は1.7%）に引き上げる目標を示しました<sup>22</sup>。日本政府はパリ協定における「自国が決定する貢献（NDC）」<sup>23</sup>において、上記水準での再生可能エネルギーの導入を前提にGHG排出量を2030年までに2013年比で26%削減することを約束しており、再生可能エネルギーの利用拡大は日本の気候変動対策において重要な役割を果たします。

日本では陸上風力の導入可能な立地が限定的なことから、2018年に閣議決定された「エネルギー基本計画」<sup>24</sup>において、洋上風力は導入拡大が不可欠な電源として位置付けられています。日本における洋上風力の導入可能量は16億kWと推計されており、これは陸上風力の2.8億kWを上回り、太陽光の約10倍、地熱及び中小水力の約100倍の潜在的な導入が期待されています<sup>25</sup>。一方で、海域利用ルールの未整備により導入が進んでいない実態を踏まえ、日本政府は2019年3月に「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律（再エネ海域利用法）」<sup>26</sup>を施行し、洋上風力の導入拡大を後押ししています。

サステナビリティクスは、戸田建設の洋上風力発電設備の建設に係る資金使途は、洋上風力発電の導入拡大に貢献し、明確な環境改善効果を生み出すものと評価します。また、同使途は日本政府の進める気候変動対策に貢献するものとの見解を表明します。

#### グリーンビルディングによる環境改善効果

日本政府はパリ協定を踏まえたNDC<sup>27</sup>において、2030年までにGHG排出量を2013年比の26%削減することを約束し、その達成に向けて、事務所ビルや商業施設等の建物からの排出を示す業務部門及び家庭部門の最終エネルギー消費量をそれぞれ14%と27%削減する目標を設定しています<sup>28</sup>。両部門の最終エネルギー消費量は1990年比で約2割増加しており<sup>29</sup>、CO<sub>2</sub>の排出量は日本のCO<sub>2</sub>総排出量の約3割を占めることから<sup>30</sup>、日本のCO<sub>2</sub>排出量の削減にあたって、建築物における省エネルギー性能の向上は必要不可欠となっています。日本政府は、新築建築物における省エネルギー性能の向上や既存建築物の改修、エネルギー管理の徹底、高効率照明導入等の施策の積み上げにより、削減目標の達成を目指しています。

建築物の省エネルギー性能の向上に向けて日本政府は、2015年に建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律（建築物省エネ法）<sup>31</sup>を制定し、大規模な非住宅建築物の省エネ基準適合義務を導入し、規制措

<sup>22</sup> 経済産業省、「長期エネルギー需給見通し」（2015年）：<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ondanka/kaisai/dai30/sankou1.pdf>

<sup>23</sup> 「日本のNDC（国が決定する貢献）」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113664.pdf>

<sup>24</sup> 経済産業省、「エネルギー基本計画」：<https://www.meti.go.jp/press/2018/07/20180703001/20180703001-1.pdf>

<sup>25</sup> 環境省、「平成22年度再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査」：<https://www.env.go.jp/earth/report/h23-03/full.pdf>

<sup>26</sup> 経済産業省、「「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律の施行期日を定める政令」及び「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律施行令」が閣議決定されました」：<https://www.meti.go.jp/press/2018/03/20190315001/20190315001.html>

<sup>27</sup> 「日本のNDC（国が決定する貢献）」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113664.pdf>

<sup>28</sup> 国土交通省、「今後の住宅・建築物の省エネルギー対策のあり方について（第二次答申）（参考資料）」：<https://www.mlit.go.jp/common/001275971.pdf>

<sup>29</sup> 国土交通省、「今後の住宅・建築物の省エネルギー対策のあり方について（第二次答申）（参考資料）」：<https://www.mlit.go.jp/common/001275971.pdf>

<sup>30</sup> 環境省、「2018年度（平成30年度）の温室効果ガス排出量（確報値）について」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113762.pdf>

<sup>31</sup> 国土交通省、「2018年度（平成30年度）の温室効果ガス排出量（確報値）について」：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113762.pdf>

<sup>31</sup> 国土交通省、「建築物省エネ法の概要（詳細説明会）」：<https://www.mlit.go.jp/common/001178846.pdf>



## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

置の段階的な強化に取り組んでいます。また、2030年までに新築建築物の平均で ZEB を実現する政策目標を掲げています<sup>32</sup>。

サステナビリティクスは、同社のグリーンビルディングに係る資金使途は、建築物における省エネルギー効果を創出し、増加傾向にある建築物に由来する最終エネルギー消費量の低減を通じて日本の気候変動対策に貢献するものと見解します。

### 「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献

「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals (SDGs))」は 2015 年 9 月に策定され、持続可能な開発を実現するための 2030 年までの目標が設定されました。戸田建設のグリーンボンドは以下の SDGs 目標を推進するものです。

資金使途のカテゴリー	SDG	SDG 目標
再生可能エネルギー	7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2 2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
グリーンビルディング	9. 産業と技術革新の基盤 をつくろう	9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。

## 結論

戸田建設は、本フレームワークに基づいてグリーンボンドを発行し、調達資金を洋上風力発電及びグリーンビルディングの建設に係るファイナンス資金及び／又はリファイナンス資金に充当する予定です。サステナビリティクスは、同使途は、同社が掲げる環境方針、環境目標及び中期経営計画と整合し、日本政府による気候変動対策並びに SDGs の目標 7 及び 9 の推進を後押しするものと考えます。また、同社は適格プロジェクトに付随する環境及び社会的リスクの管理・低減に向けて、十分な体制を有していることを評価します。

戸田建設の資金使途は、GBP 及び日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版において、明確な環境改善効果を有することが認められた事業区分に該当します。サステナビリティクスは同社の適格クライテリア、プロジェクトの評価・選定プロセス、調達資金の管理及びレポーティングに関する方針は、マーケット・プラクティスに合致していると考えます。

上記を総合的に検討し、サステナビリティクスは本フレームワークが GBP の 4 つの要件及び日本のグリーンボンドガイドライン 2020 年版と適合し、信頼性及び透明性が高いものであるとの意見を表明します。

<sup>32</sup> 経済産業省、「エネルギー基本計画」：<https://www.meti.go.jp/press/2018/07/20180703001/20180703001-1.pdf>

## 参考資料

### 参考資料 1：フレームワークの概要

グリーンボンドの発行を目的として、戸田建設は 2020 年 6 月に GBP が定める 4 つの要件（調達資金の用途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポートイング）に適合するフレームワークを以下の通り策定しました。尚、フレームワークは戸田建設に帰属します。

#### 1. 調達資金の用途

グリーンボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクトの建設にかかる支出（土地取得費、建設費、改修費等）又は建設資金のリファイナンスに充当します。

##### 1.1 適格クライテリア

- グリーンボンド原則 2018 のカテゴリー：再生可能エネルギー  
洋上風力発電施設（五島市沖洋上風力発電事業等）  
グリーンボンドの発行日から 36 カ月以内に調印された新規又は既存の風力発電プロジェクトの開発工事、運営又は施設拡張に関連する支出
- グリーンボンド原則 2018 のカテゴリー：グリーンビルディング  
以下のいずれかの第三者認証を将来取得又は更新予定の物件のうち、当該グリーンボンド発行日から遡って過去 36 カ月以内に竣工又は将来竣工予定の物件（仮称）新 TODA BUILDING 等）
  - CASBEE-建築（新築、既存、改修）又は CASBEE-不動産における A ランク又は S ランクの取得を予定
  - LEED-BD+C（Building Design and Construction）又は LEED-O+M（Building Operations and Maintenance）認証における Platinum 又は Gold
  - BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）における 4 つ星又は 5 つ星
  - DBJ Green Building 認証における 4 つ星又は 5 つ星
  - ZEB Ready
  - 東京都建築物環境計画書制度性能評価「段階 3-3」確保

#### 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

##### 2.1 プロジェクトの選定における適格及び除外クライテリアの適用

プロジェクトの選定プロセスは、プロジェクトがグリーンボンドの適格クライテリアに合致するかの評価を戦略事業推進室が実施し、それを受けて調達資金を充当するプロジェクトの選定を財務部が行います。プロジェクトの選定の最終承認は取締役会が行います。

##### 2.2 環境目標

当社は「すべての事業活動を通じて、環境保全活動を展開する」を環境方針に掲げ、地球環境の再生・保全に努め、地球環境をより良い状態で次の世代に引き継いでいくことを目的とし、以下の活動を継続的に取り組むことを約束しています。

1. 汚染の予防、資源の有効利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性の維持・保全等に係わる環境負荷低減活動を推進する。
2. 環境関連事業及び技術開発に取り組むと共に、建設物の設計・施工及び施設の管理等すべてにおいて環境保全活動を展開する。
3. 環境に関する法令、協定等を順守すると共に、情報の開示に努め、社会とのコミュニケーションを図る。

また、事業活動に使用する電力を 100%再生可能エネルギーとすることを推進する国際企業イニシアチブ「RE100」に加盟するほか、エコ・ファースト企業として以下の目標を設定しています。

- (1) 当社が施工中に排出する CO<sub>2</sub> 総量などを削減します。
  - ・ CO<sub>2</sub> 排出量原単位を 2030 年に 1990 年比 50%削減、2050 年には 60%削減
  - ・ CO<sub>2</sub> 排出総量を 2030 年に 1990 年比 70%削減、2050 年には 80%削減
  - ・ 作業所での建設廃棄物の最終処分率を 5%以下まで低減
- (2) 当社が設計する事務所ビルから排出する CO<sub>2</sub> 総量を削減します。
  - ・ 2050 年に 1990 年比 80%削減

- (3) 当社の保有施設から排出する CO<sub>2</sub> を削減します。  
 ・ 2050 年に 1990 年比 60%削減  
 (4) 建物やインフラを長寿命化することで、サステナブルな社会の実現に貢献します。

### 2.3 環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

当社の適格プロジェクトに対して日本の法律に従った環境影響評価（EIA）を実施しています。加えて、過去には洋上風力発電機の環境リスクについて環境省の実証実験にも参加しており、その洋上風力発電機がもたらす環境への影響は軽微であるとの結論が出ています。

また、適格プロジェクトは日本の環境影響評価法に定められている環境影響評価の手続きに従います。建物の建築においても事業活動による CO<sub>2</sub> 排出量を 2050 年までに 80%削減すること、RE100 への加盟による再生可能エネルギーへのシフトに取り組むとともに、建築廃棄物の削減対策や建築発生土の排出抑制策などを推進しゼロエミッション（埋立廃棄物ゼロ=リサイクル率 100%）を目指しています。

## 3. 調達資金の管理

調達資金の充当及び管理は、グリーンボンドが償還されるまでの間、当社の財務部が行います。財務部は適格プロジェクトの予算と支出を四半期毎に追跡管理する内部管理システムを用意します。なお、調達資金の大半は発行から 3 年以内に充当予定です。さらに、調達資金は適格プロジェクトに充当されるまでの間、現金又は現金同等物で管理します。

## 4. レポーティング

### 4.1 資金充当状況レポーティング

当社は、調達資金が適格クライテリアに適合するプロジェクトに全額充当されるまで、プロジェクトについて機密性を考慮しつつ、調達資金の状況（プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額、充当予定時期、未充当資金の運用方法等）を同社ウェブサイト上に年 1 回公表します。加えて毎年発行の CSR レポートにも記載します。

さらに同社は、調達資金の全額が適格プロジェクトに充当されるまでの間、毎年グリーンボンドの調達資金が適格プロジェクトに充当されていることを確認する旨のレターを同社の財務部担当役員より受領する予定です。

また、長期にわたり維持が必要である資産について、複数回のグリーンボンド発行を通じてリファイナンスを行う場合には、グリーンボンド発行時点における当該資産の経過年数、残存耐用年数及びリファイナンス額を開示します。

なお、当社は調達資金の全額充当後、大きな状況の変化があった場合には適時開示を行う予定です。

### 4.2 インパクト・レポーティング

当社は、グリーンボンドが全額償還されるまでの間、適格プロジェクトに関連する以下の指標を同社のウェブサイト及び/又は CSR レポートにおいて年 1 回開示します。なお、最初のレポーティングについては、グリーンボンド発行から 1 年以内の実施予定です。

#### 【主な事業における KPI】

プロジェクト	KPI
洋上風力発電施設 (五島市沖洋上風力発電事業等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設した風力発電機の数</li> <li>データが入手可能な場合、風力発電機の出力及び適格プロジェクトからのカーボンオフセット量</li> </ul>
グリーンビル建設 (仮称) 新 TODA BUILDING 等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>物件又はプロジェクトの名称</li> <li>適格プロジェクトが取得した第三者認証の名称とレベル</li> <li>エネルギー使用量</li> <li>省エネルギー量</li> <li>CO<sub>2</sub> 削減量</li> <li>延床面積当たりの CO<sub>2</sub> 排出量</li> <li>水使用量</li> </ul> 但し、建物完成後に測定可能なものに限る

## 参考資料 2：グリーンビルディング認証スキームの概要と比較

	CASBEE 評価認証制度 <sup>33</sup>	LEED <sup>34</sup>	BELS <sup>35</sup>	DBJ Green Building 認証制度 <sup>36</sup>
背景	CASBEE（建築環境総合性能評価システム：Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency）評価認証制度は、建築物の環境性能を評価し、一般財団法人建築環境・省エネルギー機構が認定した第三者機関が認証する日本のグリーンビルディング認証制度です。同制度には、建築物の種類に応じ、「CASBEE-建築」、「CASBEE-不動産」及び「CASBEE-戸建」があります。	LEED（Leadership in Energy and Environmental Design）は、世界中で使用されている居住用及び商業用不動産向けの米国の認証制度です。LEED は非営利団体である米国グリーンビルディング協議会（USGBC）によって開発され、建築物の設計、建設、保守及び運用を評価しています。	BELS（Building-Housing Energy-efficiency Labeling System）は、日本の国土交通省が定めたガイドラインに基づき発行される、省エネルギー性能ラベリング制度です。BELS では、一次エネルギー消費量を評価し、省エネ性能を測定・表示します。	DBJ Green Building 認証制度は、2011 年に日本政策投資銀行が創設した認証制度であり、一般財団法人日本不動産研究所（JREI）との業務提携により運営されています。同プログラムは、主要な地域基準の一つとして認識されています。同認証制度は、オフィスビル、物流施設、居住用不動産、商業施設に対して取得可能です。
認証レベル	C ランク（劣る） B-ランク（やや劣る） B+ランク（良い） A ランク（大変良い） S ランク（素晴らしい）  ※CASBEE-不動産は C ランクを除く 4 段階評価	Certified Silver Gold Platinum	1 つ星 2 つ星 3 つ星 4 つ星 5 つ星	1 つ星 2 つ星 3 つ星 4 つ星 5 つ星
評価領域：環境プロジェクト・マネジメント	CASBEE は、建築物敷地境界の内側と外側という 2 つの主要な評価分野（Q（建築物の環境品質 Quality）、L（建築物の環境負荷 Load））の両側面から評価します。  ※CASBEE-不動産は上記評価分野なし	なし	なし	DBJ Green Building 認証制度での評価には、建設仕様、環境性能及び社会的要素が含まれます。
評価領域：建築物の環境性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー消費</li> <li>資源循環</li> <li>地域環境</li> <li>室内環境</li> </ul> ※CASBEE-不動産は、エネルギー/GHG、	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー及び大気</li> <li>持続可能な敷地</li> <li>立地と交通</li> <li>材料と資源</li> <li>水の効率性</li> <li>室内環境の質</li> <li>デザインの革新性</li> <li>地域別重み付け</li> </ul>	エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> <li>Energy &amp; Resources（省エネルギー、省資源等）</li> <li>Amenity（利便性・快適性）</li> <li>Resilience（環境リスク、遵法性等）</li> </ul>

<sup>33</sup> 一般社団法人 建築環境・省エネルギー機構、「CASBEE 評価認証制度」：<http://www.ibec.or.jp/CASBEE/certification/certification.html>

<sup>34</sup> 米国グリーンビルディング協議会、「LEED によるグリーンビルディングリーダーシップ（英文）」：<https://new.usgbc.org/leed>

<sup>35</sup> 一般社団法人 住宅性能評価・表示協会、「建築物省エネルギー性能表示制度について」：<https://www.hyoukakyoukai.or.jp/bels/bels.html>

<sup>36</sup> 日本政策投資銀行、一般財団法人日本不動産研究所、「DBJ Green Building」：<http://igb.jp/>

## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

	水、資源、生物多様性、屋内環境			<ul style="list-style-type: none"> <li>Community &amp; Diversity (周辺環境、生物多様性への配慮等)</li> <li>Partnership (情報開示等)</li> </ul>
要件	<p>スコアリングによるパフォーマンス評価</p> <p>CASBEE は、評価指標として BEE (Built Environment Efficiency) を用いています。BEE とは、Q (建築物の環境品質) を分子、L (建築物の環境負荷) を分母として算出される指標です。Q と L は、上記 4 つの評価領域の分類と再構成を通じて算定されます。</p> <p>※CASBEE-不動産は、BEE を用いず、加点方式により評価。必須項目を満たさない場合は、評価の対象外。</p>	<p>必須条件 (認証レベルとは無関係) を満たすとともに、評価項目に関連したポイントを取得</p> <p>上記のポイントの合計に応じて LEED 認証レベルを取得することになります。</p> <p>LEED には異なるいくつかのレーティング・システムがあります。各格付レーティング・システムは、特定の分野 (新築、大規模リフォーム、コア及びシェル開発、学校/小売/医療施設の新築及び大規模改築、既存不動産の運営及び保守) に適用できるように設計されています。</p>	<p>スコアリングによるパフォーマンス評価</p> <p>BELS のスコアは、建築物のエネルギー消費量を公式ガイドラインに示される建築物タイプの基準一次エネルギー消費量と比較して算出される BEI (Building Energy Index) に基づいて算定されます。</p> <p>2 つ星の評価は省エネルギー基準に適合していることに相当し、星による評価が高いほど、消費エネルギーの削減量が大きいことを意味します。</p> <p>スコアは第三者登録機関が算出します。</p>	<p>スコアリングによるパフォーマンス評価</p> <p>300 点満点となっており、通常設問 73 問とイノベーション設問 12 問の 85 の質問で構成されています。</p> <p>JREI が現地で上記の指標に基づき建築物の性能評価を行い、JREI 内に設置されたコミッティにより認証結果を判定します。</p>
パフォーマンス表示				
定性的考察	CASBEE は、国土交通省の支援の下、産官学共同プロジェクトとして継続的に開発が行われています。日本では、多くの地方自治体が、建築許可審査の際に CASBEE による評価書の提出を義務付けています。	世界的に認知され適用されています。	BELS は公式の政府基準に沿っています。  同制度はエネルギー性能のみを評価し、総合的な環境ファクターに関する広範な検討は行っていません。	DBJ Green Building 認証制度は、LEED と CASBEE と並んで、日本でグリーンビルディングの評価基準の 1 つとして認知されています。同制度のウェブページによると、2019 年 3 月現在、日本において 695 の不動産物件が当プログラムによる認証を受けています。 41

<sup>37</sup> 一般社団法人 建築環境・省エネルギー機構、「評価の仕組みと環境性能効率 (BEE)」:

[http://www.ibec.or.jp/CASBEE/CASBEE\\_outline/method.html](http://www.ibec.or.jp/CASBEE/CASBEE_outline/method.html)

<sup>38</sup> 米国グリーンビルディング協議会、「LEED によるグリーンビルディングリーダーシップ (英文)」: <https://new.usgbc.org/leed>

<sup>39</sup> 一般社団法人 住宅性能評価・表示協会、「BELS 表示例」: [https://www.hyoukakyokai.or.jp/bels/pdf/170401bels\\_07.pdf](https://www.hyoukakyokai.or.jp/bels/pdf/170401bels_07.pdf)

<sup>40</sup> DBJ Green Building 認証、日本政策投資銀行 (英文): [http://www.dbj.jp/en/pdf/service/finance/g\\_building/gb\\_presentation.pdf](http://www.dbj.jp/en/pdf/service/finance/g_building/gb_presentation.pdf)

<sup>41</sup> 日本政策投資銀行、一般財団法人日本不動産研究所、「DBJ Green Building」: <http://igb.jp/>

## 参考資料 3：グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム外部機関レビューフォーム

### セクション 1. 基本情報

発行体の名称：	戸田建設株式会社
グリーンボンド ISIN コード／発行体グリーンボンドフレームワークの名称（該当する場合）：	戸田建設グリーンボンド・フレームワーク
レビュー機関の名称：	サステイナリティクス
本フォームの記入完了日：	2020 年 7 月 30 日
レビューの発行日：	

### セクション 2. レビューの概要

#### レビューの範囲

レビューの範囲では、以下の項目を適宜使用/採用しています。

本レビューでは次の要素を評価し、GBP との整合性を確認しました。

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の用途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価及び選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング            |

#### レビュー機関の役割

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む） | <input type="checkbox"/> 認証     |
| <input type="checkbox"/> 検証                                     | <input type="checkbox"/> レーティング |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）                       |                                 |

注：レビューが複数ある場合やレビュー機関が異なる場合は、レビューごとに別々のフォームを使用して下さい。

#### レビューの要約及び／又はレビュー全文へのリンク（該当する場合）

上記「評価概要」を参照ください。

### セクション3. レビューの詳細

レビュー機関は、以下の情報を可能な限り詳細に提供し、コメントセクションを使用してレビューの範囲を説明することが推奨されています。

#### 1. 調達資金の用途

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

資金用途の対象となる適格カテゴリー、1) 再生可能エネルギー、2) グリーンビルディングは、GBP において認められているカテゴリーと合致しています。また、サステナリティクスは、戸田建設の適格プロジェクトは、環境改善効果をもたらす、国際連合が定める持続可能な開発目標（SDGs）の目標7及び9を推進するものと考えます。

#### 資金の用途のカテゴリー（分類は GBP に基づく）

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー   | <input type="checkbox"/> エネルギー効率               |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び抑制   | <input type="checkbox"/> 自然生物資源の持続可能な管理と土地の使用  |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全  | <input type="checkbox"/> クリーン輸送                |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源及び廃水管理   | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応              |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス   | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行の時点では確認されていないが、将来的にGBPのカテゴリーに適合するか、又はまだGBPのカテゴリーになっていないその他の適格分野に適合すると現時点で予想される | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）      |

GBP のカテゴリーにない場合は、環境分類を記入して下さい（可能な場合）

#### 2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

グリーンボンドの調達資金の用途となるプロジェクトは、適格クライテリアに沿って、戦略事業推進室及び財務部によって評価及び選定された後、取締役会による承認を経て最終選定されます。戸田建設のプロジェクトの評価及び選定はマーケット・プラクティスに合致しています。

#### 評価・選定

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体のサステナビリティ目標は、環境改善効果をもたらす | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトが適格カテゴリーの範囲に適合していることが判断される |
|---|--|

## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドによる調達資金に適格なプロジェクトのクライテリアが定義されており、その透明性が担保されている | <input checked="" type="checkbox"/> ドキュメント化されたプロセスにより、プロジェクトに関連した潜在的ESGリスクを特定及び管理していることが判断される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価・選定に関するクライテリアのサマリーが公表されている                   | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）   |

### 責任に関する情報及び説明責任に関する情報

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 外部機関による助言又は検証を受けた評価／選定のクライテリア | <input type="checkbox"/> 組織内での評価 |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）                         |                                  |

### 3. 資金管理

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

戸田建設財務部が調達資金の管理において責任を有し、四半期毎に内部管理システムを用いてグリーンボンドの適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理します。戸田建設の調達資金の管理におけるプロセスはマーケット・プラクティスに合致しています。

### 調達資金の追跡管理:

- |  |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体はグリーンボンドの調達資金を体系的に区別又は追跡管理している    |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当の資金の運用に使用する予定の一時的な投資手段の種類が開示されている |
| <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）                                |

### その他の情報開示

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規の投資にのみ充当       | <input checked="" type="checkbox"/> 既存と新規の投資に充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当         | <input type="checkbox"/> 支出ポートフォリオに充当           |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示 | <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入して下さい）：      |

### 4. レポーティング

セクションについての総合的コメント（該当する場合）

戸田建設は、年次で同社ウェブサイト及びCSRレポート上で、調達資金が完全充当されるまでの間、充当状況レポーティングを開示し、また、グリーンボンドが全額償還されるまでの間、インパクト・レポーティ



## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

ングを開示する予定です。充当状況レポートには、充当額及び未充当額を含む充当状況の報告が示されます。また、インパクト・レポートには、風力発電機のカーボンオフセット量やグリーンビルディングの認証及びCO<sub>2</sub>排出量・削減量を含む定性的及び定量的な環境改善指標の報告を約束しています。

## 資金使途レポート

- プロジェクト単位  プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券  その他（具体的に記入して下さい）：

## 報告される情報

- 充当額  投資額全体におけるグリーンボンドによる調達額の割合
- その他（具体的に記入して下さい）プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、未充当額、充当予定時期、未充当資金の運用方法等

## 頻度

- 毎年  半年毎
- その他（具体的に記入して下さい）大きな状況の変化があった場合に適時

## インパクト・レポート

- プロジェクト単位  プロジェクト・ポートフォリオ単位
- 個々の債券  その他（具体的に記入して下さい）

## 報告される情報（予想又は事後の報告）

- 温室効果ガスの排出量／削減量  消費エネルギーの削減量
- 水消費量の削減量  その他のESG指標（具体的に記入して下さい）：風力発電機の出力（データが入手可能な限り）、グリーンビルディングの物件又はプロジェクトの名称、適格プロジェクトが取得した第三者認証の名称とレベル、建物完成後に測定可能な場合、エネルギー使用量、延床面積当たりのCO<sub>2</sub>排出量、水使用量

## 頻度

- 毎年  半年毎

- その他（具体的に記入して下さい）

#### 開示の方法

- 財務報告書に掲載  サステナビリティ・レポートに掲載
- 臨時報告書に掲載  その他（具体的に記入して下さい）：  
同社ウェブサイト及びCSRレポート
- レポーティングは審査済み（「審査済み」の場合、どの部分が外部審査の対象かを明示して下さい）

参考情報へのリンク先の欄で報告書の名称と発行日を明記して下さい（該当する場合）

参考情報へのリンク先（例えば、レビュー機関の審査手法、実績、発行体の参考文献などへのリンク）

参照可能なその他の外部審査（該当する場合）

#### 提供レビューの種類

- コンサルティング（セカンドパーティ・オピニオンを含む）  認証
- 検証／監査  レーティング（格付け）
- その他（具体的に記入して下さい）

#### レビュー機関

#### 発行日

#### グリーンボンド原則（GBP）が定義する外部レビュー機関の役割について

- i. セカンドパーティ・オピニオン：発行体とは独立した環境面での専門性を有する機関がセカンドパーティ・オピニオンを発行することができる。その機関は発行体のグリーンボンドフレームワークにかかるアドバイザーとは独立しているべきであり、さもなければセカンドパーティ・オピニオンの独立性を確保するために情報隔壁のような適切な手続きがその機関のなかで実施されるものとする。セカンドパーティ・オピニオンは通常、GBP との適合性の査定を伴う。特に、発行体の包括的な目的、戦略、環境面での持続可能性に関連する理念及び／又はプロセス、かつ資金用途として予定されるプロジェクトの環境面での特徴に対する評価を含み得る。
- ii. 検証：発行体は、典型的にはビジネスプロセス及び／又は環境基準に関連する一定のクライテリアに照らした独立した検証を取得することができる。検証は、発行体が作成した内部又は外部基準や要求との適合性に焦点を当てることができる。原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することもできる。発行体の資金用途の内部的な追跡手法、グリーンボンドによる調達資金の配分、環境面での影響評価に関する言及又はレポーティングの GBP との適合性の保証もしくは証明を検証と称することもできる。
- iii. 認証：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンドフレームワーク、又は調達資金の用途について、一般的に認知された外部のグリーン基準もしくは分類表示への適合性に係る認証を受けることができる。基準もしくは分類表示は特定のクライテリアを定義したもので、この基準に適合しているかは通常、認証クライテリアとの適合性を検証する資格を有し、認定された第三者機関が確認する。

## 戸田建設株式会社グリーンボンドフレームワーク

- 
- iv. グリーンボンドスコアリング／格付け：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンドフレームワーク又は資金用途のような鍵となる要素について、専門的な調査機関や格付機関などの資格を有する第三者機関の、確立されたスコアリング／格付手法を拠り所とする評価又は査定を受けることができる。そのアウトプットは環境面での実績データ、GBPに関連するプロセス又は2℃気候変動シナリオなどの他のベンチマークに着目する場合がある。グリーンボンドスコアリング／格付けは、たとえ重要な環境面でのリスクを反映していたとしても、信用格付けとは全くの別物である。

## 免責事項

© Sustainalytics 2020 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

本書は日本語で作成されました。日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

## サステナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステナリティクスは、モーニングスターカンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。変化し続ける世界の投資家のニーズに応えるため、25年以上にわたって最前線で、高品質で革新的なソリューションを開発してきました。現在、サステナリティクスは、ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる世界の数百の主要な資産運用会社や年金基金と取引しています。また、サステナリティクスは、数百の企業やその金融仲介機関に対し、方針、実務及び投資計画においてサステナビリティを考慮するサポートを提供しています。サステナリティクスは、世界各地に16のオフィスを展開し、600人以上のスタッフ（その内の200人以上は40以上の業種に関する多様な専門知識を有するアナリスト）を擁しています。詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com)をご参照ください。

